

令和1年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470101336	事業の開始年月日	平成18年1月1日
		指定年月日	平成18年1月1日
法人名	有限会社 福寿の里		
事業所名	福寿の里グループホーム		
所在地	(〒230 -0003 ) 神奈川県横浜市鶴見区尻手2-4-21		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和2年2月15日	評価結果 市町村受理日	令和2年5月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1：季節の食材を多く使い、手作りの食事を提供している。
2：誕生日には赤飯を炊いてお祝いしている。また、記念写真も撮っている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和2年3月11日	評価機関 評価決定日	令和2年3月28日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の優れている点】</b> ◇理念に沿った「安心できる日常生活」の支援 ・常勤准看護師が協力医の指示により、利用者の日々の健康管理や職員へ助言し、利用者や家族が安心できる支援を実践している。准看護師は、看取りや感染症への対応など内部研修の講師も務めている。 ・自治会の防犯部の部員が、事業所の防災訓練に参加して、職員や利用者とともに搬送や見守りなどの訓練を行い連携を密にしている。また、同部の責任者を運営推進会議委員とし、常に事業所や利用者の状況を伝えて災害時の協力体制の充実に努めている。 ◇食事を楽しむ支援 ・日々の食事は、食材配送業者のメニューに旬の食材を加えて、利用者の好みや季節感に配慮して職員が調理している。また、物産展や通信販売を利用したおやつを提供し、利用者が食事を楽しめるよう工夫している。お正月には手作りのおせち料理、誕生日には赤飯でお祝いするなど、食で利用者の生活に彩りを添えている。 <b>【事業所が工夫している点】</b> ・事業所の運営に関心を持ってもらうため、運営推進会議への参加は全家族の輪番制としている。
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	福寿の里グループホーム
ユニット名	福寿の里グループホーム

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し入職時に管理者より内容を説明している。また、利用者を自分の親や祖父母のように考え、支え安心感を持てるように全職員で取り組んでいる。	・理念「安心できる生活」をリビングに掲示し、職員は、入職時の説明や会議などで周知している、 ・理念に沿い常勤准看護師を中心に、利用者への細やかな健康管理に努め、丁寧な見守り共に家事を行うなど「支え合う」姿勢で支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事（お花見・お祭り・防災訓練）などに参加し地域との交流を深められるよう努力している。また、子供会主催の廃品回収にも協力している。	・自治会に加入し、管理者や職員は地域の防災訓練に参加している。 ・お祭りの神輿が事業所前を休憩場所とし、自治会のお花見には席を設けて招待されるなど、利用者は地域との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献出来るよう努力しているが実践するまでには至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム内での出来事や研修報告を行っている。出席者の意見や要望を検討しサービスの向上に努めている。	・自治会役員や地域包括支援センター職員、家族などを委員とし、2か月ごとに運営推進会議を開催し意見や情報を交換している。 ・会議に参加する自治会防犯担当に事業所の現状を伝え、火災発生時の協力体制の充実を図っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議録は、区の高齢福祉課に手渡している。地域包括支援センター職員にグループホームの問題点を相談している。	・運営推進会議録を、区担当課に持参し、事業所の実情を報告している。 ・地域包括支援センターや市・区の担当課員とは、事務手続きなどを相談している。 ・グループホーム連絡会に参加して、区との連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に研修を行い拘束のない生活支援が出来るよう努力している。出入り口には鈴をつけ音で分かるようにし施錠はしていない。言葉遣いには職員間で注意しあうよう指導している。	・全職員と協力医を委員として、3か月ごとに「身体拘束廃止委員会」を開催している。 ・「身体拘束廃止マニュアル」を資料に、内部研修を行っている。 ・玄関や事業所入口は、日中施錠せず、ドアに鈴をつけて、利用者の出入りに注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のない生活支援が出来るよう管理者が指導している。また、職員間でも注意しあうよう指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が交流会へ参加し情報交換している。また、情報の共有が出来るよう内部研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホーム内で面談し契約書の読み合わせをしている。解らないことは、その都度説明し理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や要望がないか聞いている。2か月に1回利用者の近況報告を郵送している。グループホーム入口に意見箱を設置し意見や要望があれば検討し運営に反映出来るようにしている。	・職員は日常の会話から利用者の要望の把握に努め、家族の意見は面会時に聞いている。 ・運営推進会議への家族参加を輪番制にするほか、家族に送る書類で意見や要望を聞き取り、検討して運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務内で意見や提案を聞き、その都度検討し業務改善している。	・管理者は日常の業務の中で、職員の提案、要望を聞いている。 ・職員の提案から、それまで行っていなかった、塗り絵や書道など利用者の作品の掲示を始めるなど、職員の提案を検討し業務改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に職員の要望を聞き、希望に添えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に担当者をきめ支援統一出来るよう指導している。必要に応じて准看護師がケアの実践を行い指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が交流会へ参加し情報交換している。また、情報の共有が出来るよう内部研修を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	2泊3日の体験利用をして頂き利用者・家族の要望を聞き、安心して生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時に家族の困っていることや不安なことを聞き、希望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験利用時に出来ること・できない事を見極め、利用者や家族の要望に沿った計画を作成し実践出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念を念頭に置き利用者と職員が共有できる時間を多く設け、良い関係が築けるよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会回数を増やして頂けるよう依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話から馴染みの人や場所は把握しているが家族以外に面会者はほとんどいない。家族以外の面会については、いつでも面会できることを家族から伝えて頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は、入浴の際などテレビの話題を切っ掛けに、折に触れて利用者の思い出話を聞いている。</li> <li>・利用者から聞いた、墓参などの希望を家族に伝えている。</li> <li>・希望があれば、電話や手紙の支援を行っている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活支援を通して利用者同士がお互いに支えあえるような環境作りを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限り家庭訪問や電話での対応をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から利用者の意向や要望の把握に努めている。意思表示できない利用者からは、表情やしぐさから意向をくみ取り職員全員で検討し対応している。	・職員は、利用者に分かり易い言葉で、ゆっくり話しかけて意向の把握に努めている。 ・意向把握が困難な場合は、表情や仕草から汲み取るほか、アセスメントシートや家族の意見を参考に職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者や家族からの情報をもとに、これまでの生活やサービス利用を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活支援の中で観察を行い出来ること・できない事を見極め職員全員が情報共有し利用者の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を基に介護計画を作成している。短期3か月、長期6か月、状況変化時に見直しを行っている。必要に応じて主治医に相談し意見を聞いている。	・利用者や家族、医師、職員の意見、記録類をもとに、管理者と計画作成担当者が協議し、短期3か月、長期6か月の目標を定めた介護計画を作成している。期限内でも必要に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項のみを記録に残し職員全員で情報共有することにより介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向や要望・その時々ニーズに合わせた支援が出来るよう職員全員で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしているが協働できるまでには至っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い利用者や家族の意向に沿えるよう支援している。往診医（内科・歯科）の情報を提供し希望に応じて往診依頼している。それ以外は家族に付き添いを依頼し受診して頂いている。緊急時には職員が対応している。	・殆どの利用者が、事業所の協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療や往診、専門医の紹介を受けている。 ・協力医以外の受診には、原則家族が付き添い、受診前後には情報共有を密にしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の准看護師が職員からの情報をもとに利用者の健康管理を行っている。必要に応じて家族や主治医と連絡を取り往診依頼や受診依頼をしている。緊急時には病院へ付き添うこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院できる医療機関との業務委託契約はできているが、ほとんど入院することなく経過しており医療機関との協働が出来るまでには至っていない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアマニュアルを基に内部研修を行っている。家族の意向を尊重し出来ること・出来ない事を説明し、主治医・家族と話し合いをもち方針を決め職員全員で情報共有し終末期に向けたケアを実施している。	・家族には、入居時事業所の看取り方針を説明し了解を得ている。 ・看取り開始には、かかりつけ医や家族・本人と相談し家族の意向に沿って支援している。今年度は、3名の方の看取りを行った。 ・職員は、ターミナルケアマニュアルで、年1回研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを基に内部研修を行っているが定期的な訓練の実施は出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には自治会防犯部の協力を得られるよう運営推進会議で連絡は取りあっている。自治会主催の防犯訓練には毎年参加している。	・年2回うち1回は夜間を想定した避難訓練を実施しており、自治会防犯部員の参加を得ている。 ・非常用ハシゴを準備している。 ・3日分の飲料水を非常用に備蓄し、米はローリングストックしている。	・お米や飲料水に加え、3日分強の食品や日用品を備蓄し、リスト化して管理することが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりへの声かけを工夫しながら対応している。個人ファイルは事務所内で保管している。利用者への声かけや対応で気になる事は職員間で注意しあったり、管理者が注意し指導をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護に関するマニュアルを基に、年1回の内部研修をしている。</li> <li>・居室に入室の際には、必ず利用者の了承を得ている。</li> <li>・利用者に関する職員間の会話は、利用者の耳に入らない場所で行っている。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員が共有できる時間を多く持ち、日々の会話の中から希望を聞き出したり、自己決定できるような環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	飲水食事時・入浴介助時以外は利用者の生活リズムを崩さないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に沿えるよう家族と話し合い支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備・後片付けするよう声かけしているが拒否される事が多い。季節の食材や果物などを出来るだけ提供している。利用者の嫌いなものは細かく刻むなどして調理し提供している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材配送業者によるメニューに、旬の食材を加えて、職員が利用者の好みや季節感に配慮して調理している。</li> <li>・正月や雛祭り、クリスマスには行事食、利用者の誕生日には赤飯を提供するなど、食事を楽しめる支援をしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定し、一人ひとりの状態にあった食事量・飲水量を提供している。刻み食やミキサー食及びとろみ食にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診医の指導により利用者一人ひとりにあった口腔ケアが出来るよう支援している。ガーゼやスポンジブラシを使う事もある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ対応の利用者には排泄チェック表を使用している。その他の利用者には、定期的にトイレ誘導・介助をしている。飲水食事前や就寝時にはトイレに行くよう声かけしている。	・利用者の生活リズムに合わせ、利用者の様子を観察し、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。 ・オムツ使用の利用者1名には、排泄チェック表を活用し一定時間ごとに介助して、オムツの使用を減らす工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜を多く摂れるよう工夫している。体を動かすよう運動支援もしている。必要に応じて主治医と相談し緩下剤の処方をして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人で入浴できる利用者がいないため希望に合わせた支援は出来ない。入浴は週2回（夏場は3回）実施している。入浴日以外は足浴や清拭で対応している。	・入浴は週2回、午前中に男性職員が支援している。入浴日以外は清拭をしている。 ・利用者が職員と1対1になる入浴支援のときは、リラックスして鼻歌や昔話が出ることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを崩さないよう心がけながら昼夜逆転しないよう時間の調整支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬を把握できるよう説明書とおくすり手帳は、いつでも見れるよう準備している。薬の変更時には個人記録に記載し情報共有している。また、服薬確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態に合わせて1人で出来る事は時間がかかっても本人にして頂き達成感を味わえるようにしている。また、散歩・日光浴・外気浴で気分転換出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中で行きたい所があれば家族に伝え外出支援を依頼している。近隣散歩や屋上での日光浴・外気浴を支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設脇の道路で散歩をしたり、近くの公園に散歩に出かけることもある。</li> <li>・天気の良い日は、屋上に上がって外気浴を楽しんでいる。</li> <li>・自治会の行事のお花見会、夏祭りに出かけている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持つ事により離設や置忘れをする恐れがあるため、入居時に家族へ依頼し現金は持たせないようにしている。必要時には家族と連絡を取り立替払いにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が電話し、利用者本人に変わり話をして頂いている。 手紙などはほとんどない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花を飾り、雨の日以外は毎日1～2時間ほどの換気をして温度・湿度の調整をしている。	・室温は夏27℃、冬24℃程度に設定し、利用者の様子を見て調整している。 ・リビング内には、生花や季節を感じさせる利用者の塗り絵などの作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりの居場所は確保されている。飲水食事時・入浴時以外は自由に過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・カーテン以外は利用者が使い慣れた布団や家具などを持って来て頂き出来るだけ環境を変えないようにしている。	・使い慣れた物品の持ち込みは自由にしている。 ・全室にナースコールを設置する他、必要に応じてベットセンサーを使用し安全に対応している。 ・天気の良い日は、2部屋ずつ布団を干している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床全体がバリアフリーになっている。ふらつきのある利用者には転倒しないよう手の届く範囲で見守りしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 福寿の里グループホーム

作成日 令和2年3月27日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	食品・日用品の備蓄が不足しており、リスト化されていない。	緊急時に必要な物のリストを作成し、用意する。	3～5日分の生活に必要な物をそろえ、リストを作成し管理する。	1～3ヵ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。